

ほじょ犬と学ぶ 「心のバリアフリー」勉強会・検定 のご案内



2020年1月

公益財団法人 日本補助犬協会

背景と目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催まで、あと200日を切りました。

世界が注目するこの一大行事を契機に、今、国を挙げて「世界に誇れるようなユニバーサルデザイン社会を創設しよう」、それを東京オリンピック・パラリンピックの「レガシー（遺産）」にしようというプロジェクトが進行しています。

このプロジェクトの基本的考え方をまとめたものが、2017年2月にユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議で決定された「ユニバーサルデザイン2020行動計画」（以下、行動計画）です。

「行動計画」は、「共生社会の実現」を目指して、ユニバーサルデザインの公共施設や交通インフラを備えた「街づくり」を進めるとともに、国民全体を巻き込んで「心のバリアフリー」の取組を展開することを宣言しています。

さらに、「過去において障がい者の受けてきた特別視、差別、隔離はあってはならない」が、かと言って「障がいのある人はかわいそうであり、一方的に助けられる存在といったステレオタイプの理解も誤りである」ことを表明しています。

すべての人がお互いを尊重し助け合い、共に生きていく「共生社会」を作るために、人々の心の在り方はどう変わるべきなのでしょうか。

- ・障がいのある人への社会的障壁は、社会全体で取り除いていくべきだと理解すること
- ・障がいのある人へ差別的取り扱いをしないと徹底すること
- ・自分と違う他者の困りごとや痛みに関心できるようなコミュニケーション能力を身に付けること

これらこそが「心のバリアフリー」であり、障がいの有無にかかわらず誰もが生き生きとした人生を享受できる社会に向けて、私達国民が習得すべき概念なのではないでしょうか。

当協会は、補助犬業界を代表して、内閣官房「心のバリアフリー分科会」に参画し、「行動計画」の普及や加速化に向けて貢献してまいりました。

その一環として「心のバリアフリー勉強会・検定」を実施しております。

当協会が行う「勉強会・検定」ですから、他団体の行う「心のバリアフリーセミナー」ではカバーされてない、身体障害者補助犬とそのユーザーについての内容をしっかりと組み込みました。

具体的には、補助犬ユーザーである視覚障がい、肢体不自由、聴覚障がいの方々に「障がい当事者講師」として参画していただいています。そして、障がい者の皆様の活躍の場を確保するために当事者講師の育成にも取り組んでいます。

「自分と異なる他者」を認め、誰一人取り残さない社会を創るために私達ひとりひとりが出来ること＝「心のバリアフリー」を学んで、それをあなたご自身の行動につなげてみませんか。

皆様のご参加をお待ちしております。

公益財団法人 日本補助犬協会
代表理事 新井 敏之
代表理事 朴 善子

標準プログラム

1. 総論

「心のバリアフリー」という考え方の背景・概要等について解説します。

「心のバリアフリーを学ぶアニメーション教材」の投影

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局作成



2. 事例報告・事例紹介

- ・障がい当事者による事例報告(実生活での課題等)
- ・企業の取組事例の紹介などを行います。



3. デモンストレーション

3種類の補助犬「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」がユーザーのためにどのような支援行動をしているか実演します。



4. ディスカッション・意見交換

- ・思い込み／偏見などの意識改善
- ・合理的配慮についての実社会の課題
- ・コミュニケーションの改善 などについてのディスカッション、
- ・障がい当事者と必要なサポートなどについての意見交換を行います。



5. 検定

希望者を対象に「検定」を実施します。
合格者には「認定証」を授与します。



◆ 当協会の標準プログラムの特徴

視覚障がい、肢体不自由、聴覚障がいという3種類の障がいを持つ方々に「障がい当事者講師」としてご参加いただき、それぞれの立場から日常の困り事を報告していただくとともに、参加者の皆さんとディスカッションしていただきます。

受講者の皆様には、障がい当事者との双方向のコミュニケーションにより「心のバリアフリー」についての理解を深めていただきます。

また、ぜひ「検定」にもご参加下さい。「検定」を受けていただくことにより、自ら判断・行動できるスキルを習得いただくことができます。

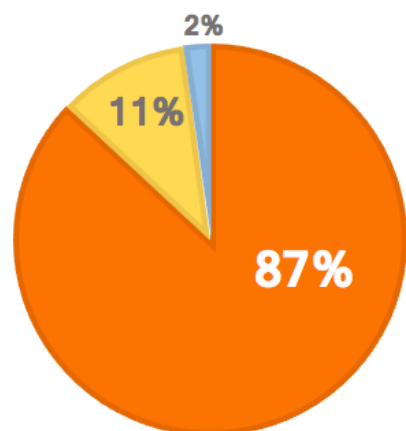
成 果

1.障がいの理解と意識の変化

《心のバリアフリー検定「参加者アンケート」より》

- ・今まで盲導犬しか知らなかった。聴導犬の存在を初めて知った。介助犬を盲導犬と思っていた自分の無知が恥ずかしい。(20代男性)
- ・駅や、バスで見かけた時に、何をすべきかがわからなかったが大事なのは相手へのコミュニケーションからだ理解了。(30代女性)
- ・自分だったらどうだろう？と考えるシーンが多く、実際の話が聞けてよかった。子供にも受けさせたい。(40代女性)
- ・日本は遅れていると思った。できることから改善支援したい。(40代男性)
- ・接客のマニュアルかと思ったら違った。こういうきっかけを会社が作るのはすごい良いと思う。(20代男性)

質問:「心のバリアフリー勉強会・検定」を受けて満足しましたか？



とても良かった 良かった ふつう 良くない

多くの受講者から高評価を頂いております。



補助犬ユーザーとの出会い・交流



東京都「オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業」の様子

2. 障がい当事者講師の声

- ・アドバイザーとして、体験談を伝えるために参加しました。たくさん質問され、楽しくお話しできたので良かったです。
- ・未だ認知の低い補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)を知っていただく良い機会となりました。
- ・補助犬を同伴する為に必要な配慮をお伝えできる貴重な機会となりました。



障がい当事者講師(聴導犬ユーザー)

企業・団体の研修担当者、CSR・SDGs 担当者の皆様へ

「心のバリアフリー勉強会・検定」をご理解いただけたでしょうか？

貴社のご意向を踏まえた、貴社のための「“心のバリアフリー”勉強会・検定」を開催させていただきます。

お気軽にご相談ください。

まず、次の内容をご確認・ご検討ください！

開催時期：貴社が希望される日時に開催します。

会 場：会議室等を用意してください。

内 容：目的・対象者に応じて標準プログラムをカスタマイズします。

〔 新入社員研修、店舗スタッフ・営業社員の接客研修、管理職・リーダー層の
意識改革研修、社員イベントでの体験学習など 〕

所要時間：90分（検定なし）～120分（検定あり）

対 象 者：貴社社員、関係会社社員等

費 用 等：勉強会開催費 30万円／回（税込）（50名まで）

※法人会員の皆様は20万円／回（税込）とさせていただきます。

検定料・認定証発行費用 5,000円／人（税込）

※勉強会と同時実施の場合は3,000円／人（税込）とさせていただきます。

MEMO



補助犬ガイド士について

「心のバリアフリー検定」は、内閣府公益認定事業「補助犬ガイド士」初級の位置付けです。

《 補助犬ガイド士について 》

身体障害者補助犬法はその第7条において「国等(国及び地方公共団体並びに独立行政法人、特殊法人)は、その管理する施設を身体障がい者が利用する場合において身体障害者補助犬を同伴することを拒んではならない」と定めています。

「補助犬ガイド士」は、3種類の補助犬ユーザーが施設を一般の方々と同じように利用でき、受け入れ 施設事業者も円滑な業務運行ができるよう、ユーザー・利用者・事業者を結ぶ懸け橋となります。

※2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたっては、障害者権利条約批准国としての対応が国際的に問われます。

▼役割

1. 受入れ体制の確立

- ・「ガイド士」のリードによる施設内での対応方法の確立(受入れ窓口の一本化など)。
- ・系列施設内での「補助犬受入れ体制」の統一。
→「補助犬受入れ」に関する社内ルール・体制を確立することにより、受け入れに関する混乱を回避できます。

2. 従業員への教育

- ・「補助犬の受入れ」の位置付けの明確化。
→従業員が順守すべき行動規範(コンプライアンス)として位置付ける。
- ・補助犬の正しい基礎知識の習得(種類の確認・対応のポイント等)の促進。
→従業員のだれもが、施設利用者へ適切な補助犬の説明が可能となる。

《 補助犬ガイド士レベル別一覧 》

【初級】「心のバリアフリー」検定 ・2時間 ・講義(+グループセッション)・検定試験



「心のバリアフリー」の基礎を学んでいただく研修です。ユニバーサルデザイン2020行動計画に基づいた研修プログラムの内容をカバーしており、身体障害者補助犬ユーザーの困りごとについても網羅しています。全ての人を対象としています。



【中級】「サポートガイド」検定 ・2時間 ・講義+実技 ・検定試験



初級を受講された方向けの実技中心の研修です。視覚障がい者、肢体不自由者、聴覚障がい者の方々へのサポート、また、身体障害者補助犬ユーザーのサポート方法の基本を講義と実践を通して習得して頂きます。共生社会の実現を目指すすべての方が対象です。



【上級】「補助犬ガイド士」検定 ・3時間 ・講義+実技 ・検定試験



初級、中級2つの検定(他団体の資格同等の検定等も含む)を修了された方向けの身体障害者補助犬の知識や補助犬ユーザーの接遇方法などを身に付けるための実技研修です。本格的な専門知識が必要な方、また、補助犬の普及・啓発にご興味のある方が対象です。研修終了後、内閣府認定の検定試験を行います。



日本補助犬協会の講師陣



朴 善子

公益財団法人日本補助犬協会 代表理事

ユニバーサルデザイン2020評価会議委員(内閣官房)

人と動物との共生推進よこはま協議会委員(横浜市)

新国立競技場整備事業施工期間ユニバーサルワークショップ委員(スポーツ庁)

少年院における動物介在活動等検討会外部アドバイザー(法務省)

ユニバーサルデザイン2020外食産業における接遇マニュアル作成検討会委員(農林水産省)

(元)公益財団法人日本盲導犬協会神奈川訓練センター施設長



安杖 直人&介助犬ダンテ

公益財団法人日本補助犬協会
広報部長

社会福祉士・補助犬ガイド士
全国介助犬ユーザー連絡会 副代表



青木 保潔&盲導犬エマ

公益財団法人日本補助犬協会
理事(企画推進部担当)

補助犬ガイド士

日本補助犬協会認定講師

DPI日本会議 障害当事者リーダー

全国補助犬ユーザー連合会 代表

全国盲導犬使用者の会 会員

福永 順子&聴導犬マルコ
全国聴導犬ユーザー連絡会 代表

阿部 容子&介助犬エリック
全国介助犬ユーザー連絡会 代表

高橋 宏美&聴導犬小輔



**日本補助犬協会は、
日本で唯一3種類の補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)を育成する団体です。**

当協会は、身体障害者補助犬法の施行を機に設立された、日本で唯一3種類(盲導犬・介助犬・聴導犬)の補助犬を育成および認定できる団体です。

補助犬の育成・無償貸与などにより、目が不自由、身体が不自由、耳が不自由な方の支援を行っています。

また、広く一般の人々が、障がいを持つ人や補助犬に対する理解を深めていく懸け橋となるべく、社会への働きかけにも取り組んでいます。

「街角で当たり前ユーザーと補助犬に出会う社会」、「思いやりのある豊かな共生社会」の実現を目指してまいります。



【連絡先】

公益財団法人 日本補助犬協会 事務局

住 所 : 神奈川県横浜市旭区矢指町1954-1

電 話 : 045-951-9221 / Fax.: 045-951-9222

E-mail : japan@hojyoken.or.jp

U R L : <https://www.hojyoken.or.jp>



GUIDE DOG & SERVICE DOG & HEARING DOG
ASSOCIATION OF JAPAN